

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200791		
法人名	株式会社ケアクオリティ		
事業所名	グループホームケアクオリティ和音		
所在地	静岡県静岡市葵区緑町8-18		
自己評価作成日	令和元年 10月 9日	評価結果市町村受理日	令和元年 12月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和元年 11月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者様と職員との信頼関係を築く事を大切にしています。利用者様の人生の一部に関われた事に感謝し一日一日を笑顔で過ごせるように一緒に何かをする事に力をいれています。ご高齢の方が多く平均年齢が90.6歳ですが、体操や歌等が好きな方が多いのでレクの時間も大切にしています。また、横内学区の夏祭りに参加させていただいたり、防災訓練に参加したり地域との係わりの時間を多くもてるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事前に実施した家族アンケートでは利用者18人のうち17人の家族から回答があり、その高い回答率と回答内容から、家族が抱えている事業所の姿と管理者と職員に対する期待と感謝の思いが伝わってくる。その思いに添うように、管理者はじめ職員全員がチームワーク良く日々の介護に取り組んでいる。事業所内での利用者は静かにゆったりと過ごし、会話の中に冗談も挟まれ笑顔も多かった。地域との関わりは幅広く、学区の夏祭りへの模擬店出展で住民と交流したり、公民館の清掃活動への参加や中学生と高校生の職業体験を受入れたりしている。さらには公民館行事への参加や自治会の防災訓練に参加する等、地域との交流に力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に職員の目に付く場所に理念を掲げ理念に基づいた仕事ができる様に心がけている。	法人と事業所の理念を事務室と居間に掲示している。「理念とは日々の介護の拠り所であり、行き詰まった時に立ち返る原点であること」を月1回開催のカンファレンスで確認している。職員全員が共通の認識を持って日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会にて防災訓練や地域の夏祭りに積極的に参加している。	学区の夏祭りへの模擬店出店で住民と交流し、公民館の清掃活動にも参加している。中学生と高校生の職業体験等を受入れ、公民館行事への参加や自治会の防災訓練への参加等、地域との交流に力を入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症の理解を頂き、相談も受ける体制をとっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月第四火曜日に開催し、会議を通じ参加者からのご意見を活かしている。	2ヶ月に1回定期開催しており、自治会長や地域包括支援センター、福祉委員、保健師がほぼ毎回、そして市の介護相談員と家族1人が年1回参加している。事業所からは現況や活動報告を行い、事故報告に対する対応策等も話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政等の社会資源を利用し、介護相談員の訪問を利用している。市への提出書類は直接持参し協力関係を築くように努めている。	運営推進会議議事録を持参し、申請書類の提出や介護計画書の更新、防災計画実施報告等で月1回は介護保険課を訪問している。生活保護の利用者関連で生活支援課が来訪している。市の介護相談員来訪時に報告を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のチェックシートを実施し3ヶ月毎に振り返りを行っている。カンファレンスや社内研修等で学ぶ機会を設けている。	職員全員が3ヶ月毎に「チェック表」によるチェックを実施し、カンファレンス等での話し合いと研修で実践状況を見直している。最近では特にスピーチロックに気をつけており、成果も出ている。玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様にチェックシート実施、カンファレンスや社内研修で意識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を行い支援の必要性を理解するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が説明し、疑問点についてはその時に理解を得て署名捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の派遣を1か月に1度取り入れ、相談員からの助言はその都度対応し改善に努めている。ご家族様には面会時や電話にて意見の聞き取りを行っている。	毎日あるいは毎週等、頻繁に訪ねて来る家族が多く、その都度意見や要望を聞いている。訪問が少ない家族には、事業所から電話して話を聞いている。意見や要望は、運営や介護計画に随時反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う会議等で意見や提案を聞く機会を設けている。	月1回開催の全体会議かユニット会議、また申し送りでも職員が積極的に意見や提案を出しており、その意見や要望等を運営や介護計画に反映させている。年2回の個人面談でも意見や希望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や祝い金手当があり、研修費用などは会社負担や補助もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を行いスキルアップの機会を持つよう働きかけている。職員同士で知識の共有等の場面も見られる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や委員会、外部研修を通し他事業所との交流を図れるようにし自施設に持ち帰りサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様個々の気持ちに寄り添いながら、信頼関係作りに努めコミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面談時には環境に配慮し質問や不安な事に応えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランを作成し、今の状態に合った支援を提案、ご家族様の意見を取り入れ内容を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯量み、食器拭き、掃除等の家事を出来る事は行って頂き出来ない事は一緒に行う様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあった時はその都度連絡し必要な協力はお願している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方などが遊びに来て下さった際は自室でゆっくりと過ごして頂けるように配慮している。お帰りの際は何時でもお越し頂けるよう声掛けさせていただいている。	知人の来訪がある利用者や自宅に泊まる利用者、家族同伴で外食を楽しんだり法事や墓参りに行く利用者、また自宅近くのS型デイサービスに参加する利用者もいる。それぞれが継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し席を決めている。また1F2Fの交流の場を作りレクレーションの中で関わりを持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもご家族の相談にのり不安なく過ごせるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人やご家族の希望や意向を確認し把握に努めている。 また支援経過やミニカンファ等で情報共有している。	利用者との会話の中で、職員がヒントを出して本人の希望や意向を導き出すようにしている。情報は家族にも伝え、申し送りやカンファレンスで職員も共有して実現に向けて話し合い検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話から聞いた情報やご家族から聞いた事をプランに反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い状態把握し、申し送りで日常生活の様子を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリング、アセスメントを行いカンファレンスにて皆で確認している。ご本人やご家族の意見を反映させている。	全体会議やユニット会議の後半でカンファレンスを行い、入居時と退院後、看取りの場合は1ヶ月ごとに見直している。変化のない場合は短期3ヶ月、長期6ヶ月で見直し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録や排泄表、健康管理表にて申し送りで情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族からの要望があれば個別に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域主催のお祭りに参加したり、近所のスーパーに買い物に出掛けたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の希望に応じて定期往診の方と受診対応している方がいる。	訪問診療が月1回の協力医または訪問診療が月2回の協力医、どちらかを家族が選択し主治医としている。専門医には家族が付き添い、受診結果はメモ等で書き留めて事業所と情報共有をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護による週1回の医療連携により情報共有を図り24時間オンコール体制の中相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を提供したり病院へ出向き関係者に様子を伺い、退院時にも情報提供書をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りの指針、意思確認の説明を行い確認結果を基に医療関係者との連携に取り組んでいる。	重度化時や終末期の対応については入居時に説明して同意を得ている。医師から終末期の判断が出た時に家族と話し合い、毎月のカンファレンスで確認しながら取り組んでいる。管理者やケアマネジャー、訪問看護師が講師となって看取りの内部研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のフローチャート理解に努め緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している	年2回の防災訓練を実施し、地域の防災訓練にも参加している。地域に声掛けしているが未だ参加はない。食糧の備蓄は定期的に消費しており、事業所の湧き水は水質検査済みで、飲料水として使用が可能である。	幅広い地域との交流から近隣住民との関わりをさらに深め、運営推進会議等で協力を依頼し、災害時の地域との協力体制が築かれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修実施により職員の意識向上に努めている。	プライバシー保護や接客等については、管理者が講師となり内部研修を実施している。トイレのドアや窓・カーテンの開けっ放し、声の大きさ等には利用者のプライドを傷つけない言葉掛けや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中でご本人様の思いを汲取るような声掛けをするように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様のペースに合わせ、その中で必要性に応じたケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の選択が出来る方には職員と一緒に選んでいただき鏡の前で髪の毛セットや髭剃り等も出来るように声掛けをし促している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の食事形態にきを配りながら、季節の食材や、好物な物を取り入れたメニューを考えている。また、片づけを手伝ってもらい楽しく出来るようにお話しや歌を唄いながら行うようにしている。	法人栄養士のメニューを参考に、食事は職員が手作りしている。2～3名が交替で外食に出かけたり、季節や行事の食事やパン好きの利用者に合わせて朝食を週3回パンにする等、工夫して食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はその都度チェックし食事形態も状況に中考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け誘導し口腔ケアをしていただき仕上げ介助が必要な方には随時の支援を行っている。また夜間は義歯をお預かりし消毒し清潔を保つよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しご自分で出来ない方には時間で誘導している。ご本人様の出来ない所を手伝うようにしている。	個々の排泄チェック表で時間や状態を確認し、声掛け誘導を行っている。自分からトイレに行く利用者や布パンツの利用者もいる。自立したトイレでの排泄を支援している。ポータブルトイレ使用者は現在いない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じ朝に牛乳を提供している。トイレ内では腹部マッサージを行っている。また便秘日数を申し送りにて共有している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を確認し、利用者様の希望も加味しながら入浴の声掛けを行っている。入浴がお好きな方、毎日入りたい方には希望に添えるよう心がけている。	3日に1回の入浴機会がある。入浴を拒む利用者には無理強いせず、職員を替えたり時間をおいて声掛けしている。入浴剤の種類を時々変えて、色の変化を目で見え楽しみ、声掛けの工夫の一つにもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ゆっくり休んでいただけるように日中はなるべく活動していただけるよう声掛けしている。個々の状況に合わせて傾眠の強い方にはお部屋で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報はファイルで保管し職員がいつでも確認出来るようにし、申し送り時に情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で役割をもてるよう、楽しみができるよう、個々の生活歴や会話の中で模索している。気分転換に外食やお散歩、裏の池でのテータムなど行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に応えられるよう努力している。買い物や外食、公園での散歩に出かけるようにしている。また外泊希望があればご家族様と話し合い双方協力のもと行うようにしている。	日常の散歩コースの距離は利用者の能力に合わせて天気の良い日に出かけている。人手不足もあり、全員揃っての遠出は難しいが、個別で家族や職員と外出している。外出を拒む利用者には、窓を開けて外気浴をしたリイベントに誘ったりして外出を促している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望の物を一緒に買いにいきお金の支払いも状況をみながら出来る支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば掛けられるように支援している。手紙が届くことはあまりないが、年賀状等は届く事がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節を感じられるように毎月壁紙作品を工夫している。室温や明るさなどに配慮し居心地のよい空間作りに努めている。	居間の壁紙作品は職員がデザインを考え、保有能力に応じて利用者も制作に参加している。作品は毎月変化し、当日はススキと紅葉など秋模様であった。事業所内は明るく清潔で「いつもお世話になっているから」と、時々来訪して掃除をしてくれる家族がいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には馴染み同士が楽しく過ごせるよう配慮し、1F・2Fの交流ができるように努力している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や布団、本人の好みのカレンダー等馴染みの物を置き居心地のよい空間作りに努めている。	ベッドは各自持ち込みである。中には今までの習慣と転倒防止も兼ねて床に布団を敷いている利用者もいる。入居前の利用者の作品や家族の写真を飾るなど、家族や担当職員と相談しながら居心地の良い居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋ごと表札が貼られ、全体表示には利用者様の目線に合わせた場所に貼ってある。		